

はなぞの

KIKANSHI HANAZONO

令和5年2月1日発行 第338号

深谷市小前田2691

TEL 048 (584) 2506



大切なものは共通している

児童福祉の経験はあるものの、知的障害者福祉の経験の浅い私が、先日、「異彩を、放て。」という書籍を手に入れました。「障害」が絵筆となって生み出されるアート作品を世に解き放つ双子の起業家の物語です。福祉にイノベーションを起こした会社の起業物語として大変興味深く読み進めることができましたが、その中でも、美術館の方が語られた次の言葉が心に残りました。

「知的障害のある方たちと接する上で知っておかなければならないことがあります。言葉が発せない、あるいは語彙が数語、数十語しかないという方たちは、自分に思いや考えがあることを伝えようと思っても、周囲には結局伝わらないんだという「学習性無力感」を物心つく頃からずっと経験してきている可能性が高いと思います。成人する頃には、自分の「思い」は伝わらない、こんな「思い」などはないものとしてあしらわれるのも仕方がないという諦めが、彼らの中に出来上がってしまう。でもその「思い」の存在に気づいてくれた人に出会ったとき、閉ざされていた壁の隙間から忽然と光が差す。あるいは、言語以外で「思い」を表出する方法を得られたときも、同じように一条の光が差すのだと考えます。光が差す隙間を本人がこじ開けることはすごく難しいです。まわりの想像力、もしかしたらこんな風に言いたい、したいのかもと思い描くイマジネーション、気づく感性、さまざまな未知の可能性を信じること、それらがあって初めて隙間をこじ開けられるのです」

児童福祉でも障害者福祉でも「想像力」、「感性」、「可能性を信じること」の大切さは「共通」であることを改めて実感しました。

花園では今年度から、職員が働きやすく、風通しの良い職場づくりを進めていくことを目的として、「ほめ達検定」の受講や「産業カウンセラー面談」を導入しました。

職員同士がお互いに認め合い、支えあい、高めあっていける職場づくりを推進することが、利用者の権利擁護につながっていくと信じているからです。

2023年の花園は、想像力を豊かに、感性を高め、自他の可能性を信じて、利用者、職員共々に飛躍してまいります。

園長 戸沢 武史

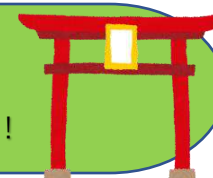


クリスマス会
おいしい食事とハンドベル演奏、それからプレゼント！
わくわくがとまりませんでした！



花園ゴスペルの様子

新年会
笑う門には福来る！
たくさん笑って1年頑張ります！



新型コロナウイルス感染症の関係で、施設イベントや外出が軒並み縮小傾向となり、利用者の皆さんには非常に残念な思いをさせてしまっています。
その中でも、花園内で楽しめる様々なイベントを企画・実施しています。
実施したイベントについては、花園ホームページにて、掲載しますのでぜひご覧下さい。